



## 島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

2019年4月12日(金)に島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。この会議は、本院の管理運営等に対して外部有識者からの意見をを得ることを目的として毎年1回開催しており、今年で12回目を数えます。

本会議には、外部有識者としてお招きした、兵庫医科大学理事長 太城力良氏、鈴鹿医療科学大学学長 豊田長康氏の2名と井川幹夫病院長及び副病院長をはじめとする本院関係者14名が出席しました。当日は、C病棟6階(小児病棟)AYAルーム(改修中)、高度外傷センター棟のハイブリッドER室、学童保育施設「キッズクラブ太陽」等の視察を行った後、懇談会を開催し、昨年度開催の懇談会における提言に対する取り組みのほか、附属病院経営改善、診療体制整備、医療人育成と医師確保および患者サービス・職員福利厚生等の取り組みについて、幅広く活発な意見交換が行われ、多くの提言を頂戴するなど、大変有意義なものとなりました。

今回頂いた意見等も参考にし、地域住民や医療関係者の方々に、より一層信頼される病院となるよう努めてまいります。

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

5月15日～6月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
5/15(水) 9:30~11:30	2019年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院
5/18(土) 9:50~16:30	第27回島根県がん登録研修会	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院 島根県健康福祉部健康推進課 島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会実務担当者研究会
5/20(月) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー 「臨床研究に係る法規制と研究審査」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 助教 富井 裕子	みらい棟4階 ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
5/31(金) 15:00~16:00	誰でも参加できる糖尿病教室 「運動続けて良かった得すること」 島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士 野口 瑛一 「動脈硬化のキホン」 島根大学医学部附属病院 内分泌代謝内科 医科医員 竹谷 海	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
5/31(金) 18:55~20:45	Colorectal Cancer Expert Meeting in 島根・鳥取	★ツインリープホテル 出雲2F「ファンクションルーム」	医療 本学	島根大学医学部附属病院 消化器・総合外科学

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

2019年

5月  
Vol.67

# NEWS



## CONTENTS

- ・病院長補佐に就任して
- ・病院長補佐就任のご挨拶
- ・地域医療支援学講座教授就任のご挨拶
- ・島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催
- ・島根大学医学部における  
研修会・セミナー開催情報



## 病院長補佐に就任して

呼吸器・化学療法内科 教授・診療科長 いそべ たけし  
儀部 威



辞典で調べた補佐の意味から、病院長補佐とは「病院長に付いてその仕事をたすけ、その務めを果たさせること」となります。病院長には多大な業務があります。患者さんに適正な医療を届け、職場環境を改善し、病院の経営を安定させるための基盤業務だけでも大変なわけですが、さらに、多くの職種との面談など、定期的業務だけでも計り知れない仕事量であろうと思います。優先順位を決めて進められるわけですが、緊急性の高い業務が生じた際にはそちらに多くの時間と労力を割く必要があり、他の業務が停止してしまいます。病院長業務が停止すると、医療の質と安全の管理が低下し、次なる緊急事態が発生しかねません。そんな時に、補佐が「病院長に付いてその仕事をたすけ、その務めを果たさせること」で、病院長が掲げる「地域の中で果たすべき役割を十分認識し、地域に愛される病院」として安心と、最先端医療をご提供できるものと思います。

病院長補佐としての職務に鋭意取り組んでまいりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 病院長補佐就任のご挨拶

循環器内科 教授・診療科長 たなべ かずあき  
田邊 一明



本年4月より当院病院長補佐を拝命しました田邊一明です。1985年に島根医科大学を卒業し、当時の第四内科に入局しました。循環器内科を専門とし、2008年5月から内科学講座（内科学第四）教授、循環器内科診療科長として診療、教育、研究に当たってまいりました。2017年7月からは総合ハートセンター長を兼任しております。

当院では緊急性の高い循環器系疾患に対し、迅速な診断と治療を提供し、患者さんの救命とスムーズな社会復帰を目指した大学病院・特定機能病院としての役割を担っています。また2018年4月から島根県で最初の経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）実施施設として症例を積み重ねております。超高齢化社会の中、これまで重視してきました患者満足、医療安全をさらに推進してまいりたいと思います。当院のさらなる活性化を目指し、微力ながら尽力したいと考えています。どうか皆様方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 地域医療支援学講座教授就任のご挨拶

地域医療支援学講座 教授 さの ちあき  
佐野 千晶



平成の最終月となる平成31年4月付けで、島根大学医学部地域医療支援学講座教授を拝命しました佐野千晶と申します。この度、原稿のご依頼を賜りましたので、僭越ながら紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、平成6年に島根大学医学部の前身である島根医科大学を卒業後、同大学の耳鼻咽喉科学講座ならびに微生物・免疫学講座において、診療・研究・教育に携わらせて頂きました。平成26年には、地域医療支援学講座に異動し、地域医療教育・地域医療支援に取り組み、現在に至っています。

全国の多くの地域と同様に、島根県でも地域医療の課題の一つに、医師不足、地域偏在があります。この課題に対して、「一人でも多くの医学生に、島根県の医療に貢献したいという気持ちをもってもらうには、どのような取り組みが必要なのか？」について、日々検討しています。医学生と接する中で思いますのは、彼らが、医師として成長できると魅力を感じて選ぶ働く場所は、スキルが習得できる充実した教育・研修プログラムならびに指導者が存在するところです。更には、患者さん、住民の皆さん、家族、友人、先輩・後輩といった地域との良好なつながりと期待が身近に感じられることが、大切なのではないかと思います。講座では、学生が低学年のうちから地域医療に興味を持ち、現場を肌で感じる学びの場を整え、地域医療教育を通じて主体的に課題解決が出来る医師育成を進めてまいりたいと思っています。言うまでもございませんが、関係者皆様のご協力が欠かせません。島根大学医学部附属病院、島根大学医学部、地域医療機関、島根県、市町村、住民の皆様と話し合いを重ね、スクラムを組み、力を合わせ、超高齢化縮小社会における島根県の医療のあり方を追求してまいりたいと考えています。島根の医療を守る仲間になって頂けますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。





# ご報告

島大病院ニュース 2019年5月

## 難病診療連携拠点病院として

難病総合治療センター センター長 むらかわ ようこ  
村川 洋子

2019年4月より島根大学医学部附属病院難病総合治療センター長に就任いたしました。

2015年1月に「難病の患者に対する医療等に関する法律」が制定され、同年9月「難病の患者に対する医療などの総合的な推進を図るための基本的な方針」に基づき、2018年度から地域の実状に応じた新たな難病の医療提供体制の構築および推進を図るものとされ、島根県でも2019年1月難病医療連絡協議会が召集されました。難病支援対策ネットワークの構築が政策として進められ、国では国立高度医療研究専門センター、IRUD (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease) 拠点病院、難治性疾患研究班、各学会が連携を図り、県においては行政、患者会、難病診療支援連携拠点病院、各疾患分野拠点病院、難病診療協力病院、一般病院・診療所、保健所、ハローワークの支援、など連携をとって、難病医療連絡協議会の連携、県における連携支援システムの構築が求められています。

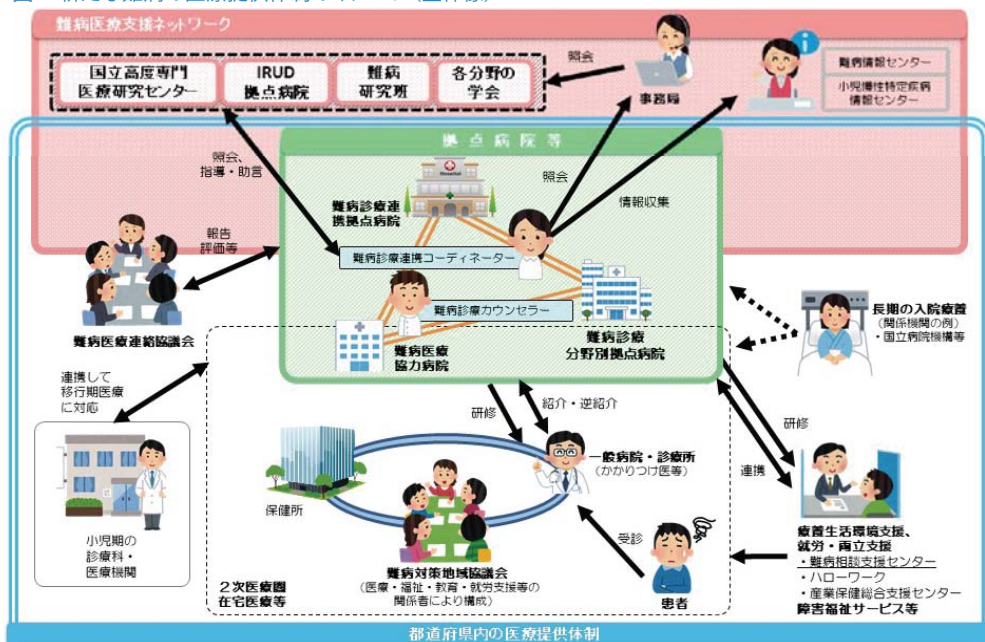
当院はこの度島根県の難病診療連携拠点病院に指定され、その中心的な役割を担うことになりました。最初の難病医療連絡協議会では、県の行政側からは、レスパイト入院を含む神経難病に関する事項が重視されていました。私自身は、膠原病専門ですので、神経内科のセンター委員と協力して、他の神経専門分野拠点病院との連携を図って参りたいと思います。

膠原病に関しましては、20年以上、膠原病患者会(友の会)の顧問をしてまいりましたが、友の会発足当初より島根県の行政が、患者会へのサポートをしてきた姿を見てまいりました。また、島根医科大学(現島根大学医学部)設立とほぼ同時に、島根難病研究所(現ヘルスサイエンスセンター島根)が設立され、難病相談事業などが設立当時より県の事業として実施されていました。島根では医療と行政の連携、患者との連携の素地があると思います。

現在の県の難病医療連絡協議会の会員医師は、私以外は神経内科医が選出されています。神経難病はもちろん重要であり現在の医療では障害も進行しやすい疾患が多いのも事実でしょう。しかし、膠原病、消化器、内分泌代謝、心臓、呼吸器、皮膚、遺伝、小児など、全ての難病患者のための連携システムを構築し、そして島根大学医学部附属病院が拠点病院としての役割を担うことが重要であると考えます。

島根の各医療機関、行政、患者会と連携し、全ての難病患者と家族の方がより良い生活を送れるように努める所存です。

図 新たな難病の医療提供体制のイメージ(全体像)



難病情報センター [http://www.nanbyou.or.jp/at\\_files/0000/2014/5860-20181106.jpg](http://www.nanbyou.or.jp/at_files/0000/2014/5860-20181106.jpg) より抜粋



# ご報告

島大病院ニュース 2019年5月

## 当院における ポジショニングクッションの整備について

褥瘡対策委員会 皮膚科学講座 准教授 かねこ さかえ  
金子 栄  
リハビリテーション部 作業療法士 さとう ちあき  
佐藤 千晃

厚生労働省の入院基本料における褥瘡対策指針の中に「患者の状態に応じて、褥瘡対策に必要な体圧分散式マットレス等を適切に選択し使用する体制が整えられていること」と挙げられています。2013年7月に褥瘡対策における物品整備として、307個のポジショニングクッションを購入しましたが、当院における病床稼働率ならびに重症患者の増加に伴い、褥瘡対策におけるポジショニングを必要とする患者が多くなっている状況がありました。そこで、病棟でのポジショニングクッションの運用状況の確認、クッションのへたり調査、クッションカバーの磨耗状況の確認を行い、ポジショニングクッション244個、クッションカバー511枚を追加購入するに至りました。



病棟でポジショニングクッションが不足していると感じている割合は全病棟の86%が「常時足りない」もしくは「足りない時がある」と回答されました。また、褥瘡対策委員が全病棟のクッションの「へたり」を調査し、劣化したクッションやカバー(写真1)も散見されたため、これらの更新も必要な状態と判断しました。

クッションを補充することによって、ポジショニングが必要な患者に質の高いポジショニングケアが提供でき、入院基本要件にある褥瘡対策が全ての患者に平等に実施されることを目指し、褥瘡対策委員会の活動を進めて参ります。

また、ポジショニングの実技を交えた勉強会も毎年開催しており、ケアの統一が行えるよう技術の向上にも努めて参ります。



2019年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2019年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



## ちょっと早いけど「あ、こいのぼり！」

「病院にこいのぼりを揚げよう。」と、井川病院長の声掛けで始まった『島大病院こいのぼり掲揚プロジェクト』。今年も病院正門前に掲揚しました。

4月11日(木)の午後1時頃、うさぎ保育所の4～5歳の子どもたち17名が真鯉、緋鯉、子どもの鯉の3流(りゅう)を掲げるために集まってくれました。

井川病院長からのお話の後、子どもたちは目を輝かせながら「こいのぼり」の歌を合唱し、さあ、いよいよこいのぼりの掲揚です。

子どもたちは病院長、看護部長とともに交替で掲揚台に上がり、元気よく紐をひいてこいのぼりを青空に泳がせてくれました。

当日は少し冷たい風も吹いていましたが、こいのぼりが空高く泳ぎ始めると、見上げる子どもたちから拍手と歓声が沸き起こり、通りかかった患者さんたちも、その姿を微笑ましく見つめて下さいました。

こいのぼりは、これからゴールデンウィーク明けまで病院の空を泳ぐ予定です。

子どもたちの健やかな成長を願いつつ、訪れる方々を楽しませてくれることでしょう。



# ご報告

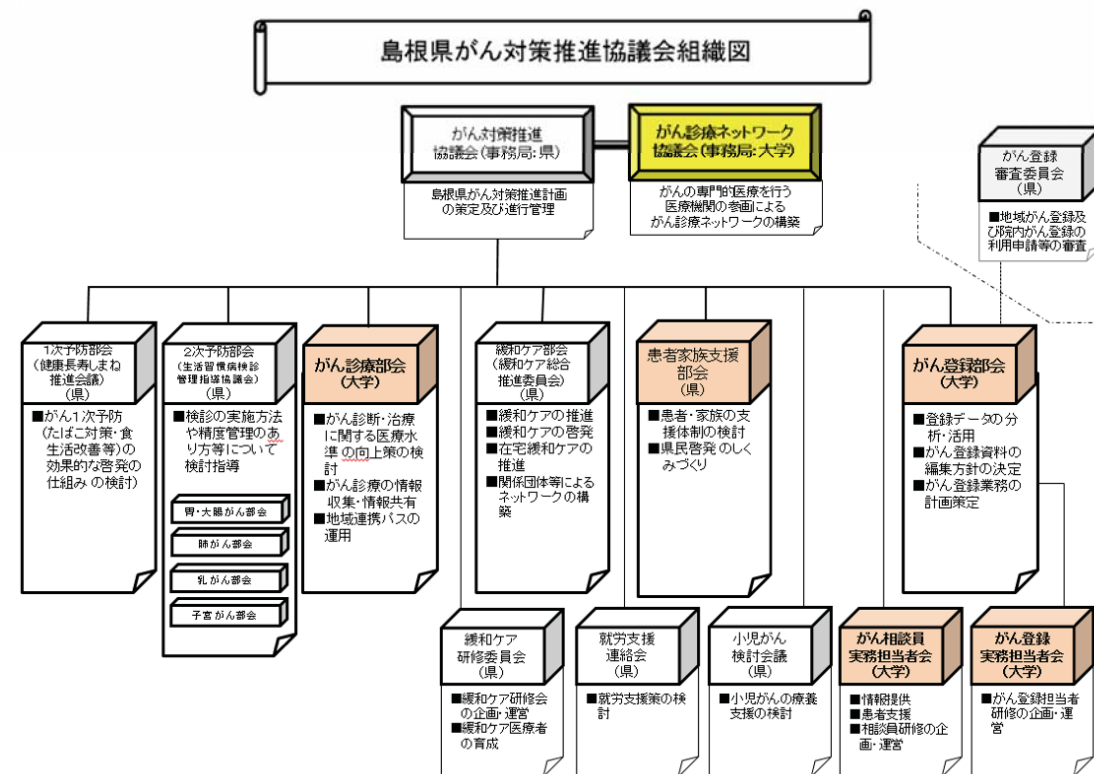
## 島根県がん診療ネットワーク協議会を開催しました

先端がん治療センター センター長 鈴木 淳司  
すずみや じゅんじ

島根大学医学部附属病院は、2008年に島根県の都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、島根県内のどこでも質の高いがん医療の提供ができるがん医療の均てん化をめざし、県内の医療機関等とネットワークの整備を進めております。この組織は「島根県がん診療ネットワーク協議会」で、当院に事務局があります。また、下図に示しますように島根県庁と当院に事務局があり、「がん対策推進協議会」も設置され、島根県のがん対策を進めるための両輪になっております。

「島根県がん診療ネットワーク協議会」は県内のがん診療ネットワーク整備を推進するために、「がん診療に係る情報の共有と発信」および「診療の質向上に関する検討と実践」の協議の場であります。2019年3月26日に本協議会を本学で開催しました。この協議会には、当院のほか、地域がん拠点病院、がん診療連携推進病院、がん情報提供促進病院や医師会、看護協会、行政機関などが診療に関わる多くの機関が集まり、がん診療連携拠点病院の取り組みや島根県のがん対策などについての討議が行われました。

また、協議会は一般公開しており県内で活動されている患者団体をはじめとする県民の皆さんに傍聴して頂いております。協議会の中で一般の方からの質問にお答えする時間も設けており、県民の皆さんに島根県で行われているがん対策等について知って頂く良い機会にもなりました。





# ご報告

## 病院運営に関する 診療科等ヒアリングを実施しました

2019年3月1日(金)から4月10日(水)にかけて、「病院運営に関する診療科等ヒアリング」を実施しました。

このヒアリングは、病院全体の共通認識を高め、円滑な病院運営ができるよう、病院執行部(病院長、副病院長、事務部長)が、診療科等毎に、診療科長、病棟医長、外来医長等から、現状と課題、目標、要望等についてヒアリングを行いつつ、意見交換を行うもので、2013年度から毎年実施しています。昨年までは、診療科のみを対象として実施していましたが、今年は一部の診療施設等も含め、全48部署を対象に実施しました。今回のヒアリングにて聴取した各診療科等からの意見並びに要望等については、担当部署も含め、病院全体で速やかに検討し、必要に応じて改善を行うこととしています。

診療科等ヒアリングは対象部署数も多く、たくさんの時間を費やしますが、各診療科等がより活発で円滑な診療活動に取り組めるよう病院全体でサポートすることに繋がっています。

今後も、これらの取組を含め、地域の皆様により良い医療を提供できるような病院運営に努めてまいります。

### 主なヒアリング内容

- 診療科等の現状及び今後の展望
- 高度医療、先進医療の目標と計画
- 2019年度病院指標目標値と達成に向けた具体策
- 診療レベル向上に向けた取組計画
- 臨床研究の実施状況と今後の予定
- 英語論文数実績
- 医療機器等の新規導入要望並びに更新計画
- その他病院への要望



# お知らせ



## 日本で初めての AYAルームが完成しました

小児科 教授 たけしたけし 竹谷 健  
 チャイルド ライフ スペシャリスト くろさき 黒崎 あかね  
 病棟師長 ながたりか 永田 里佳

医学の進歩に伴い、小児期から高齢者まで各年齢ごとにそれぞれのライフスタイルを維持しながら治療することが可能となりつつあります。しかし、思春期から若年成人(Adolescent and Young Adult、おおよそ15歳から40歳まで)と言われる世代の方が病気になった場合、治療だけでなく心理社会的支援が満足する状態ではありません。この年齢層に病気にかかる患者さんが少ないだけでなく原因や症状も他の年齢層と異なるため、確立した治療法が少ない現状があります。また、進学、就職、結婚、妊娠、出産、子育て、介護という多くの出来事をおよそ20年の間に経験するため、個々の患者さんの状況に合わせた迅速かつ適切な支援を行う社会的整備が必要です。

このような状況を改善するために、当院では、島根県とマニユライフ生命の支援を受けて、AYA世代の患者さんやご家族が入院生活をできるだけ普段通りに近い生活で過ごしていただき、養育意欲を高めてもらえるように、AYA世代の患者さんや家族が集うAYAルームを日本で初めて作りました。具体的には、思春期の子どもたちが集中して勉強できる場所、病気や退院後の生活を調べることができるインターネット環境、同じ世代の患者さん同士が語り合える空間を整備しています。中高校生から働きながら子育てや介護をしている方だけでなく、子どもの入院に付き添っているご家族まで、AYA世代の患者さんやご家族は、気軽にご利用頂ければ幸いです。





# ご報告



# ご報告



## 救命救急センター 充実度段階評価「S評価」の認定を受けました

救命救急センター センター長 わたなべ ひろあき  
渡部 広明

全国の救命救急センターはこれまで救急医療充実度に応じてA、B、Cの3つにランク分けをされておりました。昨年度の制度改正により、全国の救命救急センターの充実段階評価制度が見直され、従来の3ランクの上に「S評価」が設定され4つにランク分けされることとなりました。

昨年度実績を厚生労働省へ報告し審査を受けましたところ、当院は本年度山陰で唯一の充実段階評価「S評価」に認定されました。充実段階評価は、重篤患者の診療機能、地域への救急医療支援機能、救急医療の教育、災害医療対策の4つの領域に関する42の評価項目の充実度により点数化され評価されます。100点満点中、90点以上がS評価、72～89点がA評価、36～71点がB評価、それ以下がC評価と判定されます。また「S評価」となるには、厚生労働省が設定した是正を要する20の項目をすべてクリアすることが求められております。全国289救命救急センターのうち、S評価を受けた施設は68施設でした。東京、大阪を中心とした都市部の救命救急センターが多く「S評価」を受けている傾向にありますが、都市部の救命救急センター機能に負けない救急医療を展開できるよう、引き続き島根県の救急医療に取り組んで参ります。



## (スウェーデン) ルンド大学のマルガレータ・トロエン教授を 医学部に招聘しました

医学英語教育学講座 教授 いわた じゅん  
岩田 淳

3月10日から23日までの2週間、ルンド大学(スウェーデン)のマルガレータ・トロエン教授を医学部に招聘しました。

トロエン教授は、ルンド大学医学部家庭医学・地域医療学講座の教授として、教育、研究、診療だけでなく、医学教育プログラム改善に長年尽力されています。平成29年11月に並河徹医学部長がトロエン教授を招聘して以来、総合医療学講座、地域医療政策講座、医学英語教育学講座の教員らと研究、教育交流を続けています。なかでも総合医療学講座の木島庸貴講師は、ルンド大学にいるトロエン教授と、総合医療学講座で病院実習中の5年生を、インターネットを利用したテレビ会議システムで結び、トロエン教授が外国人の患者役となり、医師役の学生が英語で医療面接の演習を行うという先進的な教育実践にとりこんでいます。

今回、大学の戦略的機能強化推進経費(医学英語教育強化プロジェクト)によって2回目となる招聘が可能となり、トロエン教授には2週間の滞在中、5年生を対象とした医療面接セミナーや医学教育に関する共同研究等に從事いただいた他、学生・教職員を対象とした『スウェーデンの文化と医療制度』、『スウェーデンの医学教育』をテーマとしたセミナーを実施いただきました。

医学部では、学部をあげて国際化や医学英語教育に力を入れていますが、その中でこのような海外の著名な先生との協働による教育実践や共同研究の実践は、ますます重要度を増し、機会の拡充が期待されています。今年度は、トロエン教授に加え、学部と教育交流のあるアメリカのワシントン大学医学部のダグラス・パウ教授の協力を得て、こうした機会の拡充を図る予定です。



トロエン先生によるビデオ会議システムを利用した医療面接セミナーの様子



英語学習支援室eクリニックで実施された『スウェーデンの文化と医療制度』セミナー



学生による症例研究セミナーに参加し、指導されるトロエン教授





# ご報告

島大病院ニュース 2019年5月

## 新人看護職員60名が入職しました

桜が満開の中、今年度は60名の新人看護職を迎えて、新年度がスタートしました。

4月1日からの入職時集合研修は、病院の概要、看護部の概要、チーム医療における他部門紹介から始まり、配属部署の発表がありました。社会人・職業人としてのビジネスマナー研修では、医療従事者のマナーを理解するための講義がありました。挨拶が人間関係の基本であること、接遇とは心からのおもてなしをするということを理解し、身だしなみ、姿勢、表情、言葉遣いを整え、自らコミュニケーションを図りいきいきしていることが最大のマナーであると学びました。

また、新人看護職員は、多職種と連携して消防訓練、実技演習などを通して、徐々に緊張も和らぎました。多職種との演習によりチーム医療を行う上でのコミュニケーション・連携の重要性を学ぶことができました。

社会人、組織人としての自覚が芽生え、現在は配属部署では、笑顔で新たな一歩を踏み出しています。地域で信頼される質の高い看護の提供をあるべき姿とし、看護専門職として看護実践力が身につくように目指しています。日々頑張っていきますので、皆さま、応援をよろしくお願いいたします。



# ご報告

島大病院ニュース 2019年5月

## 初期研修医16名をサポートします！ ～私たちは研修修了と専門医取得を確約します～

おにがた かずみち  
卒後臨床研修センター センター長 鬼形 和道

2019年春、医科研修医16名が初期臨床研修をスタートしました。大学病院コース7名、産婦人科重点コース1名、外科系重点コース1名、そしてたすき掛けコース7名です。たすき掛けコース7名は、それぞれ益田赤十字病院(1名)、県立中央病院(3名)、そして宇治徳洲会病院(3名)で1年間の研修をおこない、2年目は大学病院で研修します。

これから数か月間は心身ともに最もストレスのかかる期間です。働き方改革の元年でもあり、学内のメディカルスタッフとともに私たち指導医は彼らを次のステップに導きたいと思えます。

オリエンテーションの中で、私は次の言葉を新社会人に贈りました。

- ・インフォームド・コンセントを( ); written IC was obtained
- ・Prescription; さじ加減
- ・Professionalism; 人間性 卓越性 利他主義 説明責任

2020年より新研修制度が始まりますが、私たちは卒前卒後のシームレスな医学教育の充実を進めながら、医療の現場で指導者そして教育者となれる後輩を育てていく所存です。

先生方には地域医療研修等でお世話になります。共に若手医師を育成していきましょう。

### 臨床研修の到達目標、方略、及び評価(2020)

#### I. 医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
2. 利他的な態度
3. 人間性の尊重
4. 自らを高める姿勢

#### II. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性
2. 医学知識と問題対応能力
3. 診療技能と患者ケア
4. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践
6. 医療の質と安全管理
7. 社会における医療の実践
8. 科学的探求
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

Shimadaizm

### インフォームド・コンセントを( )

( )に動詞を入れて下さい!

written informed consent was obtained

Prescription

さじ加減

Professionalism

人間性 卓越性 利他主義 説明責任

Shimadaizm



2019年5月 発行

編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2019年5月 発行

編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年5月

# お知らせ



## 呼吸器疾患の最先端医療を提供しています

呼吸器・化学療法内科 教授 いそべ たけし  
磯部 威

医学が急速に進歩し、呼吸器の病気は多様性、多元性を有していることが解ってきました。わかりやすく言うと、一人の病気にはいくつもの表情、性格や歴史があるということです。一例をあげると、喫煙が原因となって咳や息切れを生じる慢性閉塞性肺疾患（肺気腫）と診断され、禁煙して気管支を拡張する吸入治療薬で治療を開始し症状が楽になりました。その後再び咳や息切れがひどくなってきました。通常は慢性閉塞性肺疾患が進行、あるいは増悪したと考えますが、実は気管支喘息、間質性肺炎、肺がんなどが合併した可能性があります。最先端医療とは、病気の状態が変化したときに一度立ち止まって病気の性格が変わったのでは？新たな病気が加わったのでは？と判断する、プレジジョン医療（正確な診断と治療）のことです。

気管支喘息は、抗体療法、気管支サーモプラスティ（温熱療法）といった最新の治療法が当院では実施可能です。また、間質性肺炎（肺線維症）は難病の一つですが、抗線維化薬が使用可能となり、当科では間質性肺炎専門外来を設置し多職種による最先端医療を実施しています。肺がんの診断のために必要な気管支鏡検査は、麻酔方法と診断技術が進歩したために、苦痛が少なく安全な検査となっています。診断後の治療方針を検討する際に重要な遺伝子変異や免疫チェックポイント阻害薬の使用のための検査を全例に実施し、「どのような遺伝子的な特徴を持った肺がんか」ということを確実に調べて、最も効果が期待される治療薬で治療を行います。セカンドオピニオンも随時受け入れておりますので、遺伝子検査結果情報を加味した患者さん一人ひとりの「肺がん」のタイプに応じた、さらにはその患者さんのご希望や家族背景なども含めて治療方針を検討し提案する、「プレジジョン医療」を呼吸器・化学療法内科で実施していますので、ご紹介をお願いします。



島大病院ニュース 2019年5月

# お知らせ



## 運動器疾患の超音波診断への取り組み

整形外科学講座 講師 くまはし のぶゆき  
熊橋 伸之

昨年当院への新型の超音波機器の導入に伴い、運動器疾患における超音波診断を様々な整形外科領域で取り組んでおります。変形性膝関節症は、一般的に単純X線撮影像を用いて診断されています。本超音波機器を用いることで関節内の軟骨や半月板をより鮮明に映し出すことができるため、変形性膝関節症の早期診断に取り組んでいます(写真1)。この取り組みは2007年から「膝検診」として始め、島根県内の各地域に出向き、一般住民を対象に超音波機器を用いて、変形性膝関節症の早期発見、予防の研究も行っています。また乳児健診では先天性股関節脱臼の診断に本超音波機器を用いて行っており、被曝なく安全に本疾患を早期発見できるように努めています(写真2)。またスポーツ傷害の代表格である野球肘においては、本年導入されたポータブル超音波機器を用いて、現場に出向き、本疾患の早期発見、ならびに必要であれば当院へ紹介し、治療を行っております(写真3)。

今後も整形外科領域において、非侵襲的な本超音波機器を用いて新たな診断の向上と確立、ならびに各疾患の早期発見、治療に努めてまいりたいと考えています。

お知らせ  
島大病院ニュース

2019年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ  
島大病院ニュース

2019年5月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

